

第4章 ニーズ調査

1. ニーズ調査の概要

(1) 調査の目的

子育て家庭の実態や子育て支援ニーズ、子育てや少子化に関する意識等を把握することにより、今後の子育て支援施策の充実に活かすとともに、「子ども・子育て支援事業計画」策定の基礎資料とするため。

(2) 調査の対象

就学前児童の保護者	本町在住の就学前児童全員（悉皆調査※）
小学生の保護者	本町在住の小学生全員（悉皆調査※）

※悉皆調査…調査対象の全てを調査すること

(3) 調査の方法

就学前児童の保護者	郵送による配付・回収
	幼稚園・保育所を通じた配付・回収
小学生の保護者	小学校を通じた配付・回収

(4) 調査の期間

平成31年3月1日～平成31年3月11日

(5) 回収の結果

	配付数	有効回収数	有効回収率
就学前児童の保護者	1,518件	1,197件	78.9%
小学生の保護者	1,514件	1,380件	91.1%
計	3,032件	2,577件	85.0%

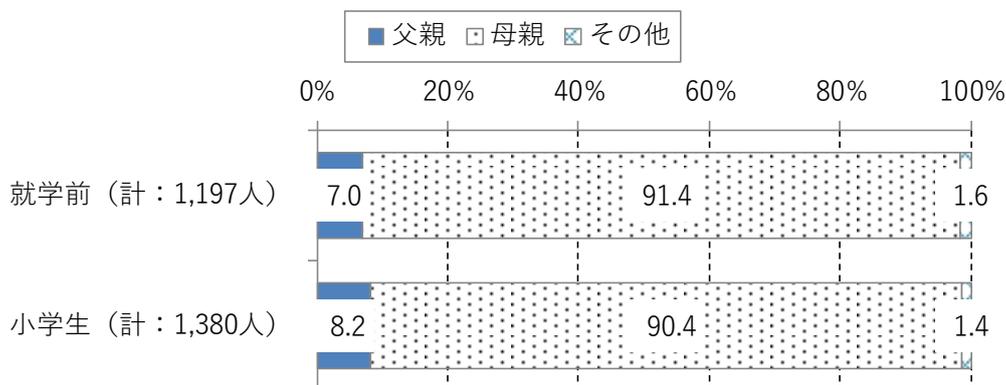
2. ニーズ調査の結果

(1) 家族の状況

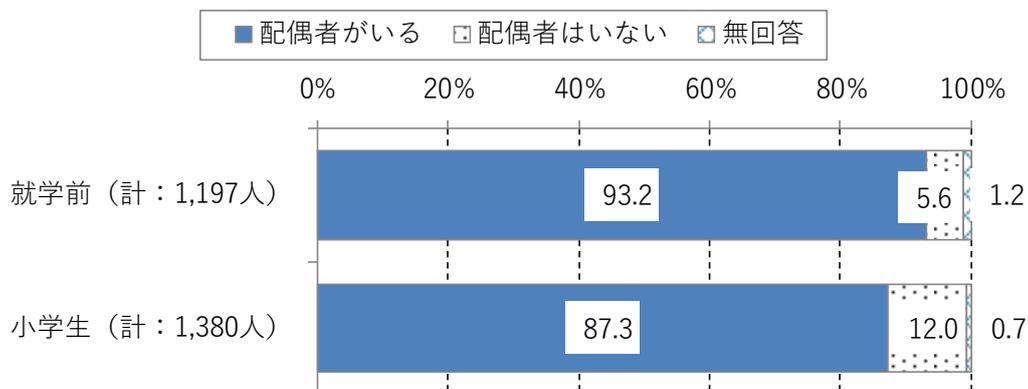
本調査に回答した方の9割以上が母親となっています。また、配偶者のいない家庭は就学前児童で5.6%、小学生で12.0%となっています。子育てを主に行っているのは「父母ともに」と回答した保護者が就学前児童51.0%、小学生45.0%となっている一方、「主に母親」と回答した保護者は就学前児童45.9%、小学生51.0%、「主に父親」と回答した保護者は就学前児童0.4%、小学生1.1%となっています。これらのことから分かりますとおり、男女共同参画意識の拡がりに伴い、男性が子育てに参画しつつある状況がみられるものの、依然として、母親が子育てを担っている現状がみてとれます。

緊急時に子どもを見てもらえる人として、祖父母などの親族を挙げる人が多いものの、子どもを見てもらえる人がいない家庭も1割近く存在しており、ひとり親である場合だけではなく、母親がひとりで子育てをする場合でも、周囲に相談できる親族や友人がいない等の要因が重なることで、たちまち地域で孤立してしまうおそれがあることが分かります。

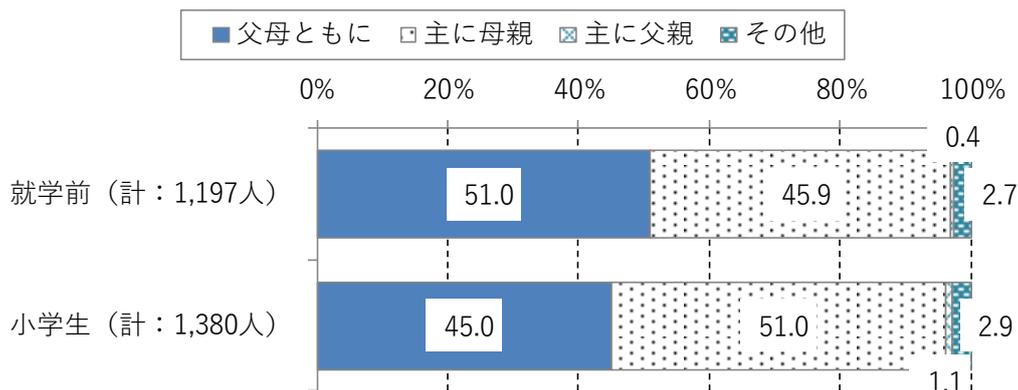
図表 1 本調査の回答者



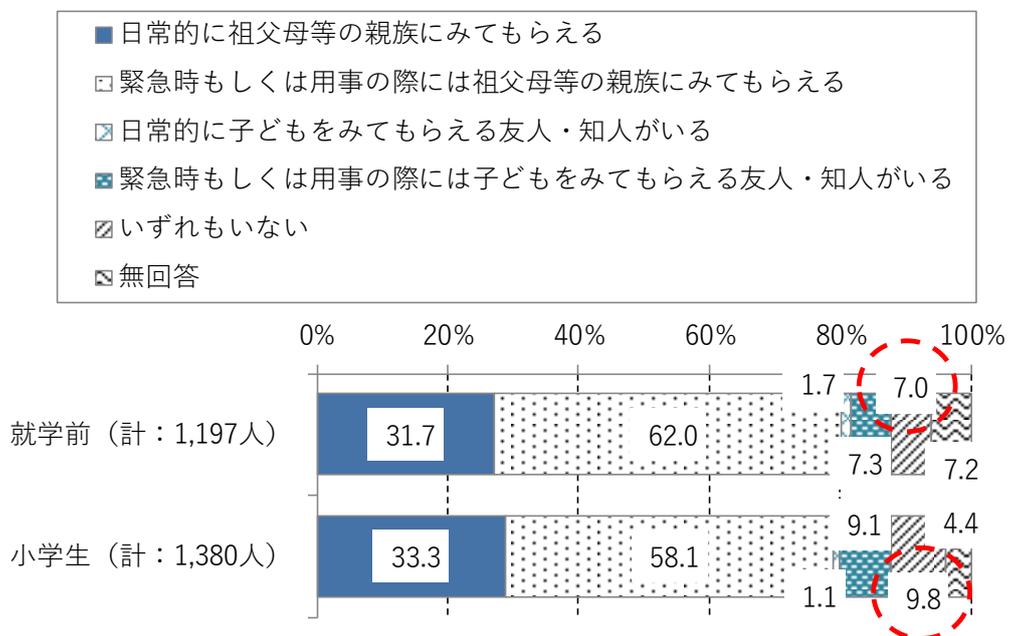
図表 2 配偶者の有無



図表 3 子育てを主にやっている人



図表 4 日頃、お子さんを見てもらえる親戚・友人の有無

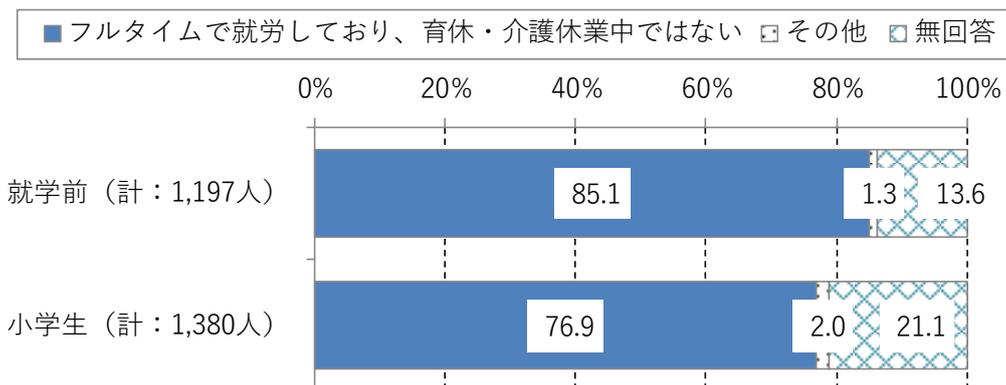


(2) 保護者の就労状況

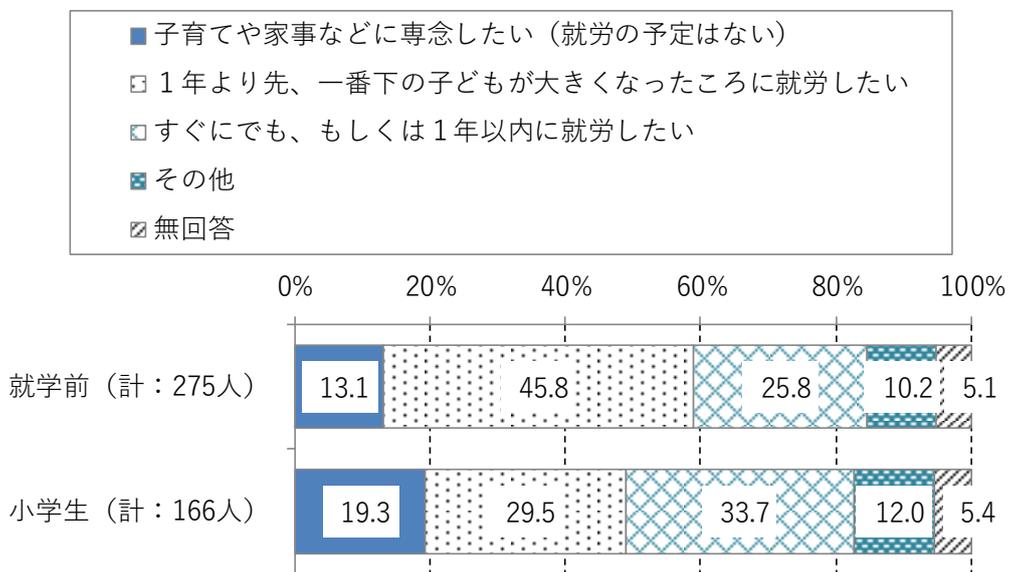
父親の約8割はフルタイム勤務となっています。

働いていない母親の就労意向を見ると、就学前児童の母親の25.8%、小学生の母親の33.7%が、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答しており、希望する就労形態は就学前児童の母親の約8割、小学生の母親の約7割が「パート・アルバイト」と回答しています。

図表 5 父親の就労形態



図表 6 就労していない母親の就労意向

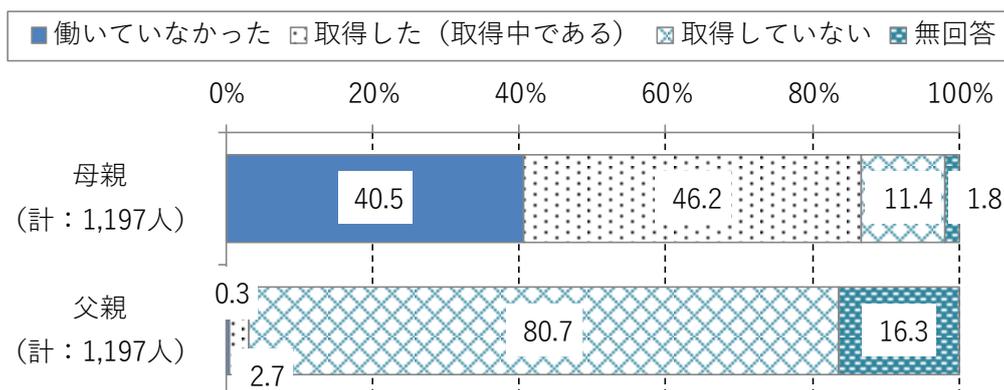


(3) 育児休業など職場の両立支援制度

育児休業制度を、就学前児童の母親の46.2%が取得したのに対して、父親は2.7%の取得に留まっており、圧倒的に低くなっています。

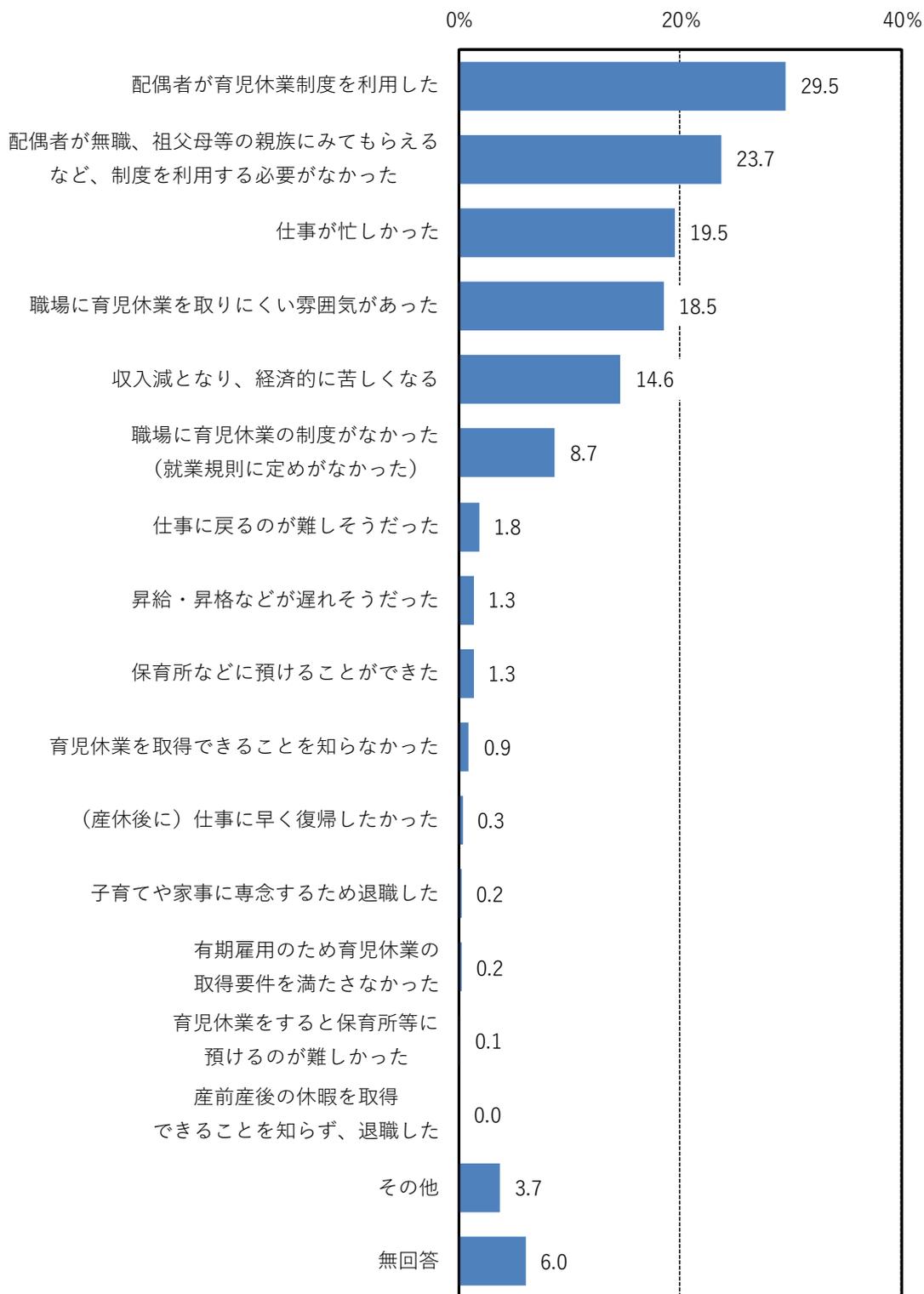
父親の育児休業の利用率が低い背景には、職場に育児休業に対する理解が浸透していないことや、育児休業することで収入が減少してしまうことなどが考えられます。

図表 7 育児休業利用率（就学前児童）



● 第4章 ニーズ調査 ●

図表 8 育児休業や短時間勤務制度を取得しなかった理由（父親）

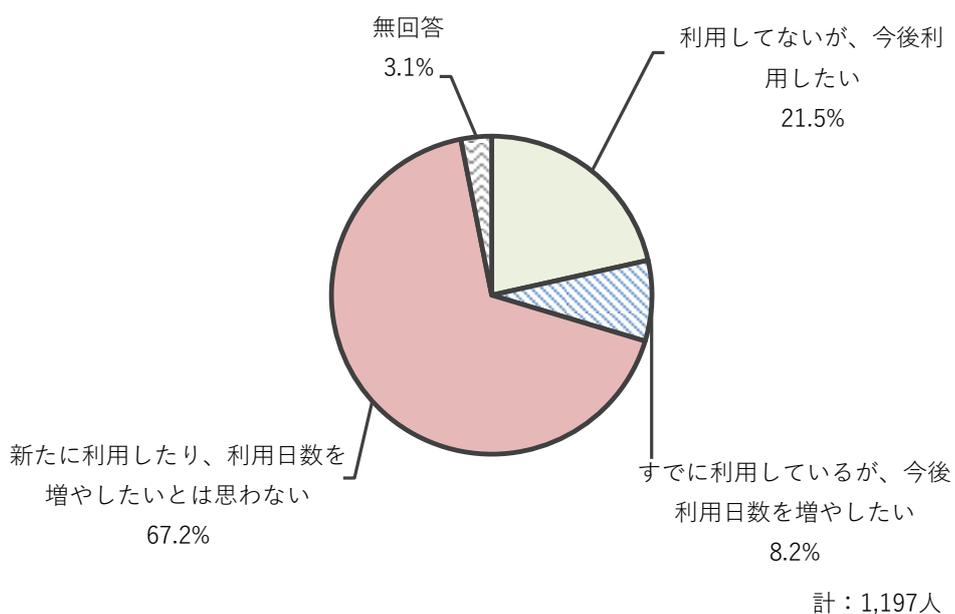


計：966人

(4) 地域子育て支援センター及び子育て支援サービスの利用状況

地域子育て支援センター（公民館などで実施している類似の活動を含む）について、今は利用していないが、できれば今後利用したいと回答した人の割合は21.5%、今後利用日数を増やしたいと回答した人の割合は8.2%となっており、合わせると就学前児童の保護者の29.7%が地域子育て支援センター等の新規利用（利用増）に意欲的であることが分かります。

図表 9 地域子育て支援センターの利用意向（就学前児童）

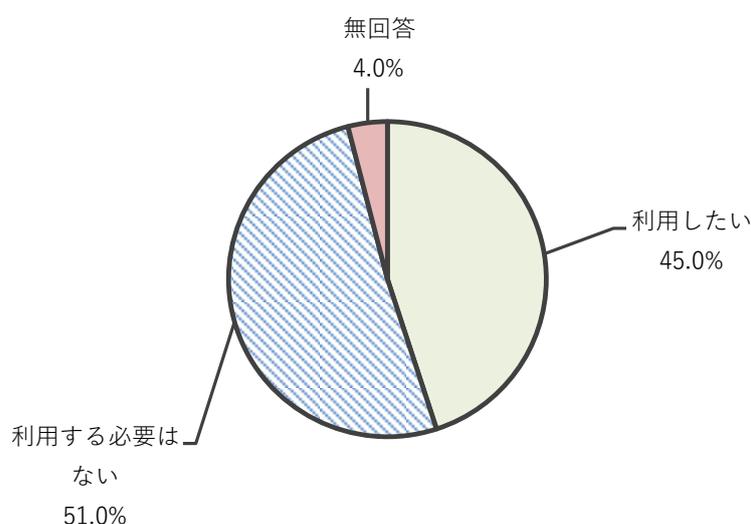


(5) 不定期の教育・保育施設や宿泊を伴う一時預かりなどの利用

保護者の用事のために施設を利用したいと思う人の割合は、就学前児童の保護者では45.0%となっています。

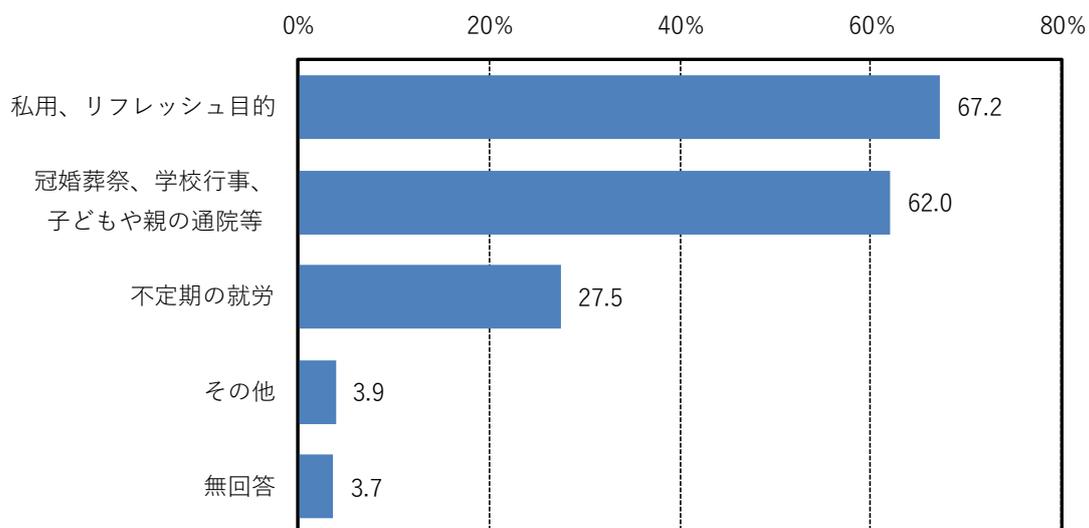
就学前児童の保護者の利用目的として、「私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的」が67.2%となっており、より時間的にひっ迫した状況である「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」（62.0%）以上に、レスパイト（育児に疲れた保護者が一時的に子どもを預けリフレッシュできるようにすること）のニーズが高いことが分かります。

図表 10 不定期の教育・保育施設の利用意向（就学前児童）



計：1,197人

図表 11 私用、親の通院、不定期の就労等の時の教育・保育施設の利用目的（就学前児童）



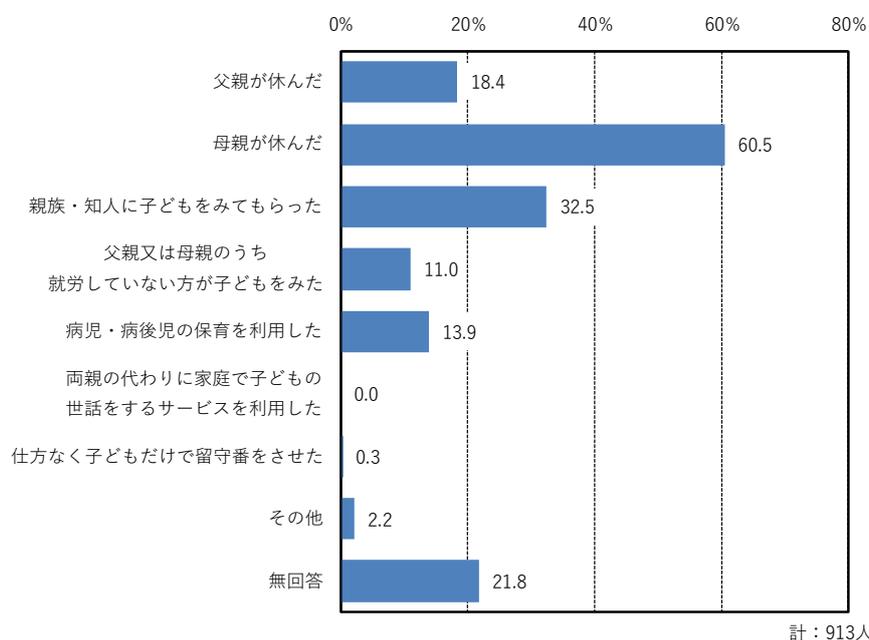
計：539人

(6) 病気の際の対応

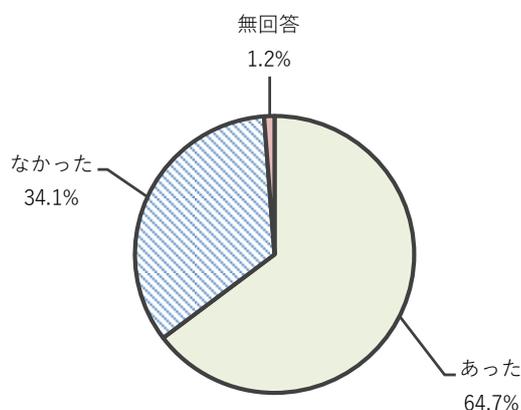
定期的な教育・保育の事業を利用している就学前児童で、この1年間にお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことがあったと回答した人は全体から無回答を除いた78.2%でした。小学生で、1年間に病気やけがで学校などを休まなければならなかったと回答した人は64.7%でした。

病気やけがで学校等を休まなければならなかったときに「父親が休んだ」、「母親が休んだ」と回答した人に、できれば病児・病後児のための保育施設などを利用したいと思ったか尋ねたところ、就学前児童の45.1%、小学生の26.9%ができれば利用したいと回答しており、特に就学前児童で利用意向が高くなっています。

図表 12 病気やケガで教育・保育の事業が利用できなかった場合の対応方法（就学前児童）

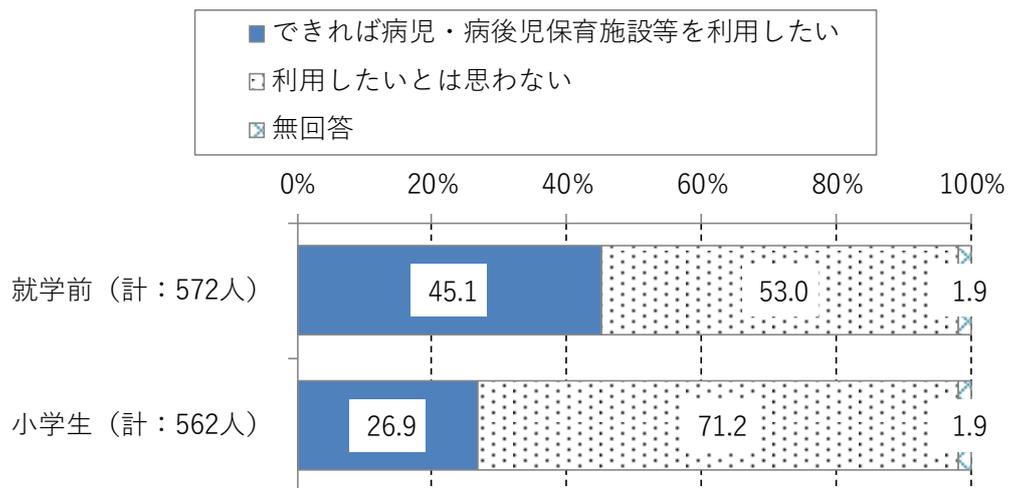


図表 13 お子さんが病気やケガで小学校へ行けなかったこと（小学生）



計：1,380人

図表 14 病児保育施設利用意向



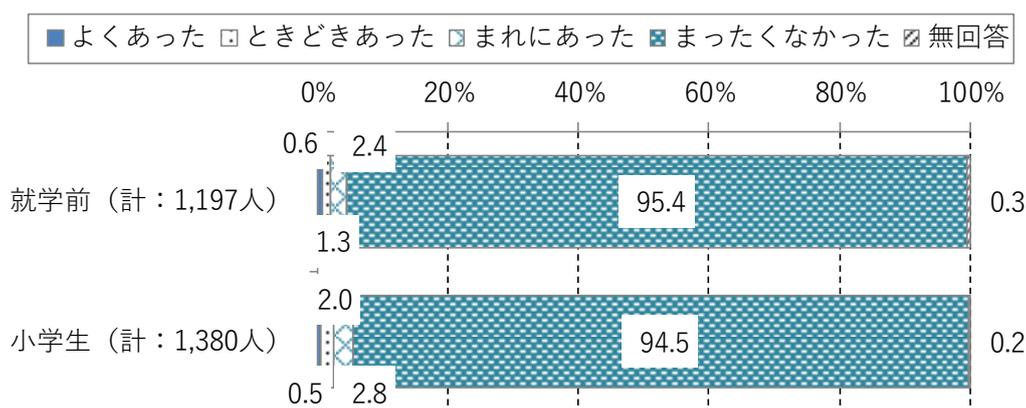
(7) 子育て世代の生活状況

生活が困窮しているという現状が子どもに及ぼす影響は少なくありません。

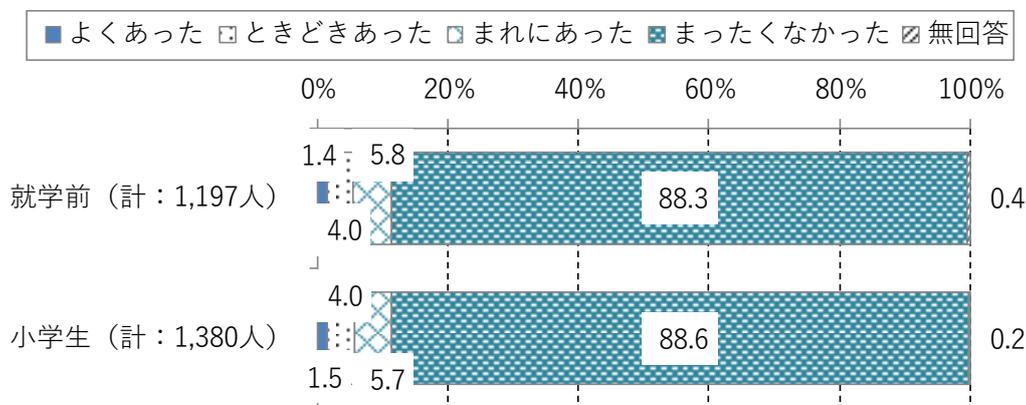
水道又は電気料金が払えないことが「よくあった」、「ときどきあった」と回答した方は少なからず生活に困窮していると考えられますが、様々な年収の世帯が水道又は電気料金が払えないことが「よくあった」、「ときどきあった」、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことが「よくあった」、「ときどきあった」と回答していることから、「世帯年収」という視点のみならず、一人ひとりの子どもたちの状況に応じて、生活に困窮している世帯の子どもを早期に発見することが重要であると考えられます。

課題を抱える子どもを行政のみで発見することは困難と思われることから、社会全体で地域の子どもの気かけ、該当する子どもがいれば、早期に適切な窓口へとつなげていく仕組みが必要となってきます。

図表 15 過去1年の間に、お金が足りなくて、水道又は電気料金が払えないことがあったかの頻度

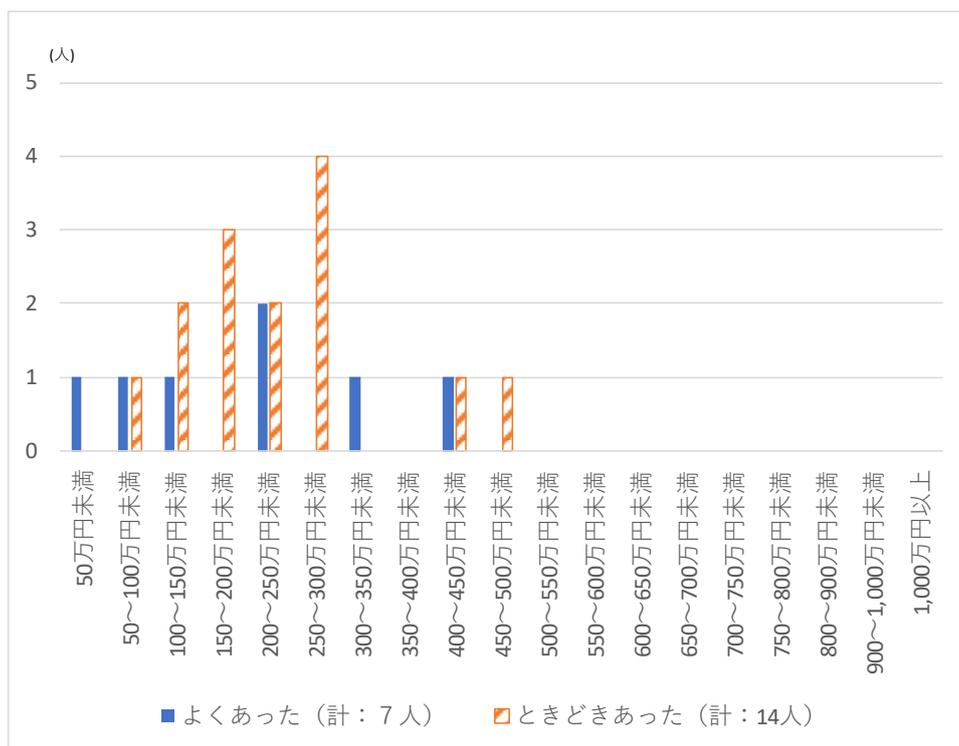


図表 16 過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがあったかの頻度

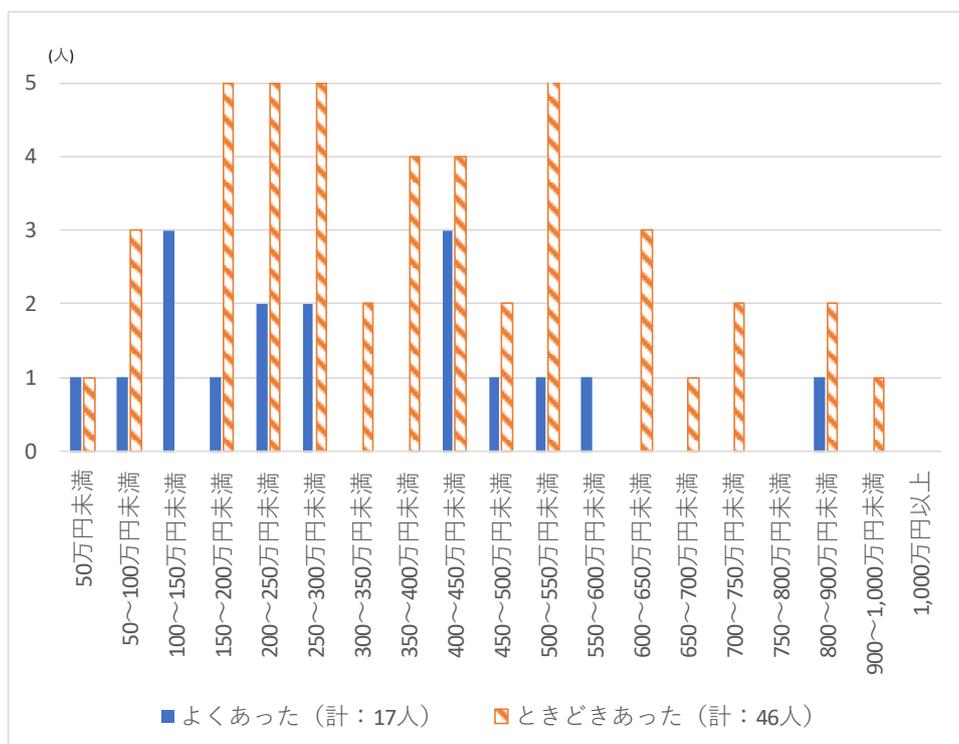


● 第4章 ニーズ調査 ●

図表 17 過去1年の間に、お金が足りなくて、水道又は電気料金が払えないことが「よくあった」、「ときどきあった」と回答した方の世帯年収



図表 18 過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことが「よくあった」、「ときどきあった」と回答した方の世帯年収



3. 自由回答集

(1) 自由回答欄を設けた背景

少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化しており、子育て中の保護者にとって、孤独感や不安感の増大要因は多岐に渡っていることが想定されます。

アンケート調査は、子ども・子育て支援事業計画策定に当たり、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みを推計し、具体的な目標設定を行うことを目的として実施した経緯があり、基本的に、調査項目は国から示された調査票案に基づき設計されています。推計に必要な設問に紙面の多くを割いたため、調査票に回答いただく子育て中の保護者の負担感との兼ね合いの中で、保護者がどのようなことに不安を感じているのか、その不安感を少しでも和らげるためには、どのような取組が必要であるのかについて、より掘り下げのための設問が相対的に不足していることも否めません。

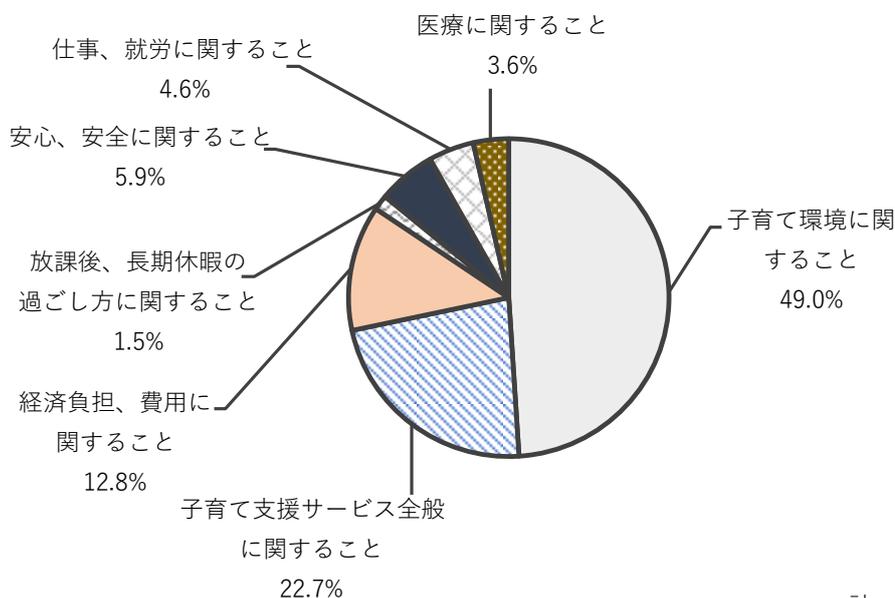
そこで、調査票の最終頁に自由記述欄を設け、子育て中の保護者が日常生活の中で感じる不安や生活上の諸課題、地域に向けた問題提起等を含め自由に記述していただくことで、これまで十分に把握しきれなかった諸課題や少数意見を見出すことを試みるとともに、課題が生まれる構造、背景を整理し、同時に、課題の解消に向けた取組の方向を探ることとしました。

(2) 自由回答の概要

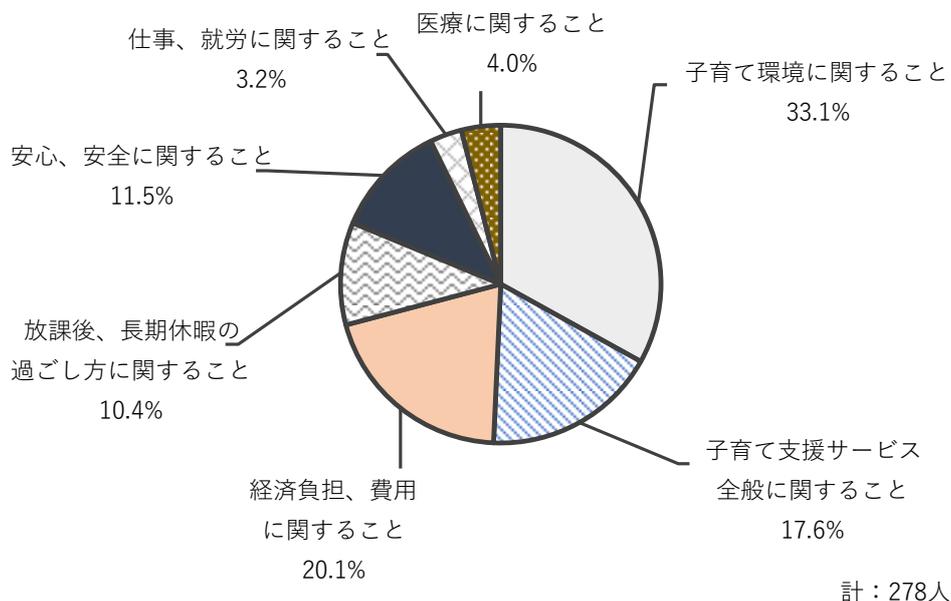
① 記述内容の課題分野

自由回答で寄せられた文章を分析し、課題分野の内訳を集計しました。

図表 19 自由回答文中における課題分野（就学前）



図表 20 自由回答文中における課題分野（小学生）



② 代表的な意見の抜粋

(子育て環境に関すること)

- ◇ 三木町にもこども園があれば嬉しい。
- ◇ 遊具、駐車場のある公園が少ない。公園で遊ばせるために町外に行かなければならない。
- ◇ 子どもが遊べる公園が身近な場所にほしい。サンサン館みき等大きな所でなくて良いので、利用しなくなった幼稚園の運動場の開放など、子どもと歩いて行ける所がほしい。
- ◇ もう少し幼稚園教育をしっかりしてほしい。今、保育園の方が教育に力を入れている気がします。もう少し小学校と合わせながら教育を取り入れた事をしてほしい。
- ◇ 子ども連れで安心して行けるカフェや食堂があったらいいと思う。子育て世代が集う場になると共にフルタイムで働く母親にとって休日等の家事軽減になると思う。
- ◇ 小学校で洋式トイレが少なく、和式トイレを知らない子どももいるので、洋式トイレを増やしてほしい。

● 第4章 ニーズ調査 ●

(子育て支援サービス全般に関すること)

- ◇ 幼稚園の預かり保育をもっと気軽に利用できるようにしてほしい。リフレッシュなどでも預けられるようにしてほしい。
- ◇ 幼稚園の預かり保育を利用する際に、手間な上にさらに手間が増えた。もう少し保護者の負担も考えて欲しい。
- ◇ 休日にも子育てを相談できる日を月に2、3回設けて欲しい。
- ◇ 警報が出た際に保育園が休園となり、どうしても外せない仕事があったため非常に困った。何等かの形で対応可能な場所があってほしい。
- ◇ 土曜の学童（児童クラブ）を毎週にして下さい。土日勤務の場合もあるので。絶対必要です。
- ◇ まんでがんふれあいホームの一時預かりを小学生（低学年）までに広げてほしい。低学年の一人での留守番は危険ですし、連れて行けない用事の時に、安心して預けられる場所があれば良いと思う。

(経済負担、費用に関すること)

- ◇ 児童手当の金額を3才から下げるのではなく小学校上がってから下げるようにしてほしい。
- ◇ 保育料を2人目から無料にしてほしい。
- ◇ 少子化問題や子どもを産めと言いますが、いざ産んでも手厚く支援して頂けるわけでもなく、すごく厳しい状況です。児童手当はありますが、子どもが3人いると足りません。1人産んでも3人産んでも長い目で見ると支援的にあまり差を感じません。もう少し子どもの多い家庭になんらかの支援を考えて欲しい。
- ◇ 保育所で毎月絵本を購入しているが保護者の負担が大きい。保育の一環で使用しているのかも知れないが、他の保護者の意見も聞いて購入を一度検討してほしい。
- ◇ 教育にかかる費用を抑えたい。児童クラブ代をもう少し安くしてほしい。
- ◇ 母子家庭は児童クラブの利用料を補助してもらえると有難いです。現在、利用したくても利用料が高いため利用できません。

● 第4章 ニーズ調査 ●

(放課後、長期休暇の過ごし方に関すること)

- ◇ 働き始めたら長期の休み（夏休み等）に子どもを預けるところがなく困る。
- ◇ 放課後、子ども達同士が遊べる場がほしい。昔みたいにみんなで集まって遊ぶことがほとんどなくなって、かわいそうだと思う。
- ◇ 3月末まで学童保育を利用します。環境にも先生にも恵まれ、非常に助かりましたし感謝しております。4月より自転車通学になるため、やむを得ず申し込みを断念した次第です。自宅では姉だけでしたが、今年度より二人で私達両親を待つ事になりますので今よりは安心しておりますが、正直、学童にお世話になりたいと思います。
- ◇ 田中小学校は児童クラブの先生が優しく、子どものことを質問してもよく分かってくれていて、安心して預ける事ができ助かっています。子どもも児童クラブが好きみたいです。ゲームを禁止している点もとても良いと思います。他の学年の子達とも仲良く遊んでいるようですのでこのままの環境が続いてほしい。
- ◇ 放課後の子ども教室はすごくいいと思います。子どもが宿題など分からない時はすぐに聞けるから良いと言って喜んで参加出来ています。

(安心、安全に関すること)

- ◇ 施設の老朽化に安全面も含めてきちんと対処してほしい。
- ◇ 自然はあるが親が安心して子どもを遊ばせることができる公園や場所がもっとほしい。
- ◇ 野犬などが多く、小さい子供がいるため不安。対策強化を願う。用水路やため池には入れないように整備をしてほしい。
- ◇ 小学校や保育所周辺の道路の交通量が多く、スピードを出す車が多いように思う。子ども達が安全に登下校できる環境にしてほしい。
- ◇ 特に低学年の時は下校の際、不安でしたがしっかり見守り隊の方がついて下さったので安心して下校することができました。今後も続けて頂きたいです。水路が多いため、よそ見をして落ちてしまった事があった。不注意なので前を向いて歩けば良いのですが、ガードレールなど対策があればと思います。

● 第4章 ニーズ調査 ●

(仕事, 就労に関すること)

- ◇ 仕事をしている土日祝日も有休をとることが多くなり、有休もなくなり減給。特に10連休となっても仕事は普通にあるので、また有休を取らなければならない、とても肩身の狭い思いもあります。祝日でも土日でも通っている幼稚園がお金を出してもいいので預かりをしてくれればとても助かります。
- ◇ 子どもを抱えて仕事をする生活がどんなものなのか、初めは想像がつかず、復帰するまで生活スタイルが思い描けないでいました。仕事にどれくらい時間を割けば自分が体を壊すほどの負担なく毎日をおくれるか、選択肢をふやすため、心構え(心の持ちよう)を築くため、多くの先輩ママさんの事例を知る事ができたら良いと思います。
- ◇ お盆や土曜に保育所に預けるのに、うちだけのために先生を配置してもらっているので申し訳ない気持ちになるが、仕事の都合上、保育をお願いしている。仕事を休み過ぎると注意されるし悩む。
- ◇ 育休を取得する時に職場に迷惑をかけると思い、退職願いを出したが受理されなかった。育休を取得する策はあるが、職場をバックアップする策がない(正規職員がいない、少ない)ため、とても申し訳ない気持ちになる。復職後も時短を希望したいが申し訳なさを感じる。職場そのものをサポートすることも必要だと思う。
- ◇ 台風で学校や学童をすぐに休みにされるのは困ります。仕事は台風でもあるので急に言われても対応に困る。もう少し状況を見て判断してほしい。晴れていても警報が出ていれば休みというのはありえない。職場の長に言いにくい。

● 第4章 ニーズ調査 ●

(医療に関すること)

- ◇ 子どもの体調が悪いと仕事を何日も休まないといけないが、仕事も休みにくいので病児保育施設を充実してほしい。
- ◇ 病児、病後児保育は融通が利かない。8時開所らしいが病気の子どもを連れ、1分前に到着したが、8時からですと言われ建物入り口の外で待たされた。また預かりを決定した時と違う症状が出た時に再度小児科の受診がないと預かってもらえないが、小児科以外がかかりつけ医の場合、保護者が休みを取らなければならず、共働きの家庭では負担になる。
- ◇ 三木町に小児科を増やしてほしい(土曜診療の)。病児保育の人数(定員)が少な過ぎるので増やしてほしい。産婦人科もできれば。母乳外来がなく困った。
- ◇ 中学卒業まで医療費が無料である等、大変助かっています。インフルエンザの予防接種も無料、または補助をして頂けると学級閉鎖などの流行を防ぐことができると思います。